

# タイ・パヤオ大学が介護施設を視察

タイのパヤオ大学から看護学部のパラレ・オパサント学部長ら大学幹部7人が7月26日から29日まで、達生堂グループの城西病院や特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」、介護老人保健施設「すばる」、通所リハビリセンター「茶釜の湯」、ショートステイ「壬生の杜」などを視察、ヒューマン・ハウスとすばるで介護体験をしました。

タイでは、高齢化が進んでいる一方、日本の介護保険のような高齢者の介護のためのシステムが整っていないといいます。このため、パヤオ大学では、日本の介護の現場を視察し、タイの高齢化政策に生かしたいと、今回の視察を計画。また、達生堂グループでは外国人技能実習制度で介護職の実習生を受け入れているため、今後、パヤオ大学の学生などの派遣を行いたいという意向もあり、視察に訪れました。

一行は、病院や福祉施設などを視察したのち、介護施設でご利用者と歌を歌ったり、昼食の準備、おむつ交換、入浴介助などを体験しました。

一行が一番興味を持ったのが、ケアマネージャーの役割。介護保険制度に沿って、ご利用者や家族のニーズをくみ取り、一番ニーズに合った施設の利用を勧めたり、在宅介護での住宅の整備のサポートをする役割に、矢継ぎ早に質問をしていました。

パヤオ大学は、タイ北部のパヤオ県にあり、2010年に創立した総合大学で、医学部、工学部、法学部などの学部を持ち、学生数は約3万人。達生堂グループとの意見交換では、「1学年30人の学生が日本語を勉強している。卒業前に日本で介護実習が受けられないか」、「日本に興味のある学生も多く、技能実習に送



り出したい」と大学側から意見が出され、多田正毅理事長は「ぜひ来てほしい。条件面を進めたい。そして、パヤオ大学病院と城西病院の交換視察も考えたい」と話していました。

パラレ学部長は「タイでは日本のような介護制度はなく、施設もない。まず、学生や技能実習生を派遣し、パヤオ県で日本のようなシステムを構築し、タイ全土に広めたい。初めて日本で実際の介護現場を視察し、勉強になりました」と話していました。

2019年7月31日

